

# M K T 通信

## Contents

2008 年度活動の経過

特集：フォーラムで築いた地域の力

参加事業、受託事業、廃油回収事業の報告

「みんなのくらしターミナル」は2008年3月11日、特定非営利活動法人として出発しました。  
 わたしたちのめざすものは、定款に定めたとおり「これからの地方主権時代に即した支え合いつむぎ合う地域社会を再構築すること」です。始動の年となったこの1年、地域社会の主体である住民が支え合いつむぎ合う関係を自らつくりあげていくために、「住民の地域づくりの支援」と「人・組織・分野・地域などを横断的につなぐ広域ネットワークの輪の拡大」を目標に、主にフォーラム開催を主体に活動してきました。「MKT通信」では、1年の活動経過を振り返り、各地で開催した取り組みから得られた成果を、企画者と参加者の思いをとおして検証したいと思います。

### - 2008 年度「みんなのくらしターミナル」活動の経過 -

日程	場所	事業名	内容など
2007.9.1	清武町	「みんなのまちをみんなでつくるフォーラム」- いまこそ「県民総力戦」	中川幾郎氏講演「県民協働で進めるまちづくり」、会場との意見交換、交流会
2007.11.24	宮崎市	法人設立総会	設立趣旨・定款の承認、運営方法確認
2007.12.15	宮崎市	「幸福づくり考 in 宮崎」 (さわやか福祉財団主催事業協力)	県内中学生のボランティア活動報告、「村の写真集」上映会
2008.3.22	日向市	「大人と子どもの語る会」	日向市立富島中学校生徒会とターミナル会員の討論
2008.4.13	宮崎市	第1回通常総会	事業・予算・役員承認、法人の果たすべき役割の勉強会、グループワーク
2008.5.10	五ヶ瀬町	「みんなのまちをみんなでつくるフォーラム in 五ヶ瀬」	「集落を元気にする方法」事例報告、意見交換
2008.6.28	宮崎市	第1回定例会(会員学習会)	公募事業提案にあたっての事業計画、予算組みの仕方
2008.7.27	高原町	「みんなのまちをみんなでつくるフォーラム in 西諸」	「まいっど見つめてみっが、わがたつの西諸」意見交換
2008.8.21	宮崎市	第2回定例会(会員学習会)	簡単文章講座「これであなたもライターもどき」
2008.9.13	宮崎市	「自殺対策フォーラム2008」(共催)	「いのちの声に答えるために、今私たちにできること」
2008.9.27	五ヶ瀬町	第3回定例会(会員学習会)	助成金プラン「こどもゆめ基金」を使って
2008.10.18	日南市	「みんなのまちをみんなでつくるフォーラム in 南那珂」	「わたしたちは南那珂のここがすき! きらい!」発表、意見交換
2008.11.1	諸塚村	「森のアートハウス in 諸塚」(県シニアパワー新みやざき創造推進事業)	デジカメ撮影講座、立岩地区撮影会、住民交流会、作品展示会
2008.11.7	清武町	第4回定例会(会員学習会)	フォーラム in 宮崎準備、「30人会」の運用、政策提言について
2008.11.20	宮崎市	第5回定例会(会員学習会)	「恋旅ブームプロジェクト」に参加して
2008.10.26	宮崎市	「みんなの人権! 思いやり交流プラザ2008年」(実行委員として参加)	「インターネット上での自分の守り方」講演、「地域の底力」寸劇、展示など
2008.12.14	日向市	「みんなのまちをみんなでつくるフォーラム in 日向・東臼杵郡」	岩田利右衛門一座公演、地芝居を通じた地域づくり、意見交換
2009.2.21	宮崎市	「みんなのまちをみんなでつくるフォーラム in 宮崎」	「観て、笑って、語れば分かる 地域のつながり人のつながりが築くステキな宮崎」意見交換
2009.3.12	宮崎市	第6回定例会(会員学習会)	2008年度事業関連報告、フリートーク
受託事業	ご近所の底力! 自殺対策応援リレー事業、シニアパワー新みやざき創造推進事業		

## フォーラム in 五ヶ瀬 (2008.5.10.土)

会場：五ヶ瀬町民センター大ホール

### 五ヶ瀬の元気発信源の紹介

五ヶ瀬町から「元気」発信をしている3人が活動発表を行いました。杉田英治さん(NPO法人五ヶ瀬自然学校)は、Iターン(移住)者として、五ヶ瀬町の人と自然を活かした地域づくりを展開し、子どもから高齢者までを巻き込んだ幅広い活動と「居場所づくり」に力を入れています。佐藤成志さん(夕日の里づくり推進会議)は、長年、桑野内地区のグリーンツーリズムに力を入れている一人。交流人口ゼロの地域を、地域全体の力を集結して「夕日の里」として振興し、農泊などの事業へと展開しています。那須政彦さん(BACK STAY)は、坂本地区の農林業・自営業の若者5名で結成したボーカーグループのリーダー。地域にかける熱い想いを形にするために歌を通して地域を元気にしたいと活動しています。五ヶ瀬町の特色を活かした地域づくりを農林業を起点にして活動を広げようとしています。

### お茶の時間

宮崎製茶の宮崎亮さんに、五ヶ瀬町特産の「釜炒り茶」の説明、若手茶業グループ「新緑会」の活動紹介、「茶業の現状と今後の展開」について話を伺い、お茶の美味しい入れ方を指導していただきました。

### 夢物語の時間「大人もでっかい夢を語ろう」

7~8名のグループに分かれ「大切なもの、欲しいもの」をキーワードに夢物語を作成。「町長を総理大臣に！」五ヶ瀬町を世界有数のリゾート地に、「タイムマシーンを作って昔に帰ろう！」など多くの夢が語られ笑い声が絶えない作業でした。夢を持つことの楽しさが日々の暮らしにつながることで、夢の中で「自分はどこにいるのか、中に入っているのか傍観者なのか」と意識することで、地域での自分の役割を再考する機会となりました。

### フォーラムから10ヶ月・・・

フォーラムをきっかけに、新たな人と人とのつながりが広がってきているのを実感しています。

## フォーラム in 西諸 (2008.7.27.日)

会場：高原町民体育館

### 自殺防止に向けた意見交換

県内でも特に自殺率が高い西諸地域で自殺防止に向けた、「住みやすい、生きやすい地域づくり」について活発な意見が交わされました。西諸地域(えびの市・小林市・高原町・野尻町)でのNPO事業は初めてではなかったのでしょうか。約100名が参加しました。

住みやすい、生きやすい地域づくりのために大阪より小林市に移住してきた八島夫妻を中心に「西諸地域に住んでどう?」「何が大変?」「楽しく住む秘訣は?」など会場を巻き込んで盛り上がりました。八島夫妻とともに私たち一人一人が「住みやすい、生きやすい地域づくり」を意識し活動することを確認しました。

### フォーラムから生まれた「30人会」

月1回の定例会、会費は定例会参加の100円のみ、飲食物はできるだけ持ち寄り、活動は集まって話すだけの「30人会」は、フォーラムに向けた会議での「2つの話」から生まれました。

一つは、NHKの「クローズアップ現代」で放映された「隣人祭り」。パリの青年が同じマンションに住む独り暮らしの老人の孤独死をきっかけに集い食事をしながら語り合う「隣人祭り」を企画。ヨーロッパで大きな反響を呼び、日本でも上映後、全国各地で「隣人祭り」が開催される反響を呼びました。

もう一つは、スペインの話。メンバーの一人がスペイン旅行した時、平日の夕方なのに人だかりでワイワイガヤガヤ。わけを尋ねると「何もないが、スペインでは『一日に150人と話そう』という諺がある。いつもこんな感じさ。150人は無理なので、30人と話そうとなりました。「一日30人と話そう!!」という意識を持つ人が西諸地域に溢れたら、人と人がつながって孤独な人はいなくなる...。誰にも話さない、話しかけられずに自殺しようとする人に「30人会」の誰かが話しかけ、自殺を防止できる...。「世界は意識と行動を併せ持つ人が変えてゆく」、この法則は絶対に変わらないと信じて、入会者が自然と増えることを願い活動していきます。

### フォーラムin南那珂 (2008.10.18.土)

会場：日南市生涯学習センターまなびピア

#### 横のつながりを求めた準備期間

7月から3ヶ月弱という短期間で地元の青年から壮年世代までの個人が集まり準備にあたりました。個々に地域おこし活動をしているグループはあっても横のつながりが希薄だという声が多くある中、実行委員用のメーリングリストを立ち上げ、連絡事項の伝達や意見交換の場として活用しました。

「南那珂のここがすき！ すかん！」

フォーラムを通して参加者どうしのつながりを深め“つながることが気持ちいい”と感じてもらえることをめざしました。「“気持ちいい”が次の一步を一緒に踏み出す仲間をつくる、“つながる気持ちよさ”は、こちらが感じさせるものではなく参加者が気づくもの」という実行委員の思いにより、テーマが決定しました。当日は、サーフィンを通じて様々な活動をしている川端龍一さん、県外から北郷町に移り住んで農業を営む玉村力也さん、吾田中学校生徒会の皆さんに「わたしたちは南那珂のここがすき！ すかん！」を発言してもらい会場のアンケートも行いました。

「ここがすき！！」 海と山がすばらしい/自然が豊か/四季の変化を実感できる/歴史を感じる場所が多い/食べ物が美味しい/食文化が豊か/地域の人が温かい/見守ってくれている実感がある

「ここがすかん！！」 行政、観光協会、商工会議所、企業、団体の一体感がない/移住を希望する人がいるのに生活できずによそに行ってしまう/すばらしい観光地があるのにうまく外にPRできていない/遊ぶところが少ない/パチンコ屋は多すぎ？/将来働くところがあるのか心配

#### フォーラムを終えて

南那珂には豊かな自然に加えて食文化や歴史遺産が残っており、地域をなんとかしようとする人々が活動する人はいます。それでも繋がりを持って活動するイメージが希薄で、行政の腰の重さに不満もあるようです。温かい雰囲気や人とのふれあいを大切に、そこからもう一步踏み出していくこ

とを模索していきたいと考えています。

今回は30歳前後の若者たちが実行委員として頑張り、終了後も「できることをやりたい！」と3人が名乗りをあげています。まだ活動には結びつきませんが、問題意識を忘れずに持ち続けることができれば変化を期待できると思います。

### フォーラム in 日向・東臼杵郡

(2008.12.14.日)

会場：日向市大王谷コミュニティセンター

#### 岩田利右衛門一座公演

宮崎県美郷町南郷区鬼神野地区。約200戸の小さな地区に、ここで彼らを知らない人は「もぐり」といわれるほど有名な素人芝居集団「岩田利右衛門一座」があります。座長の岩田幸男さん率いる一座のメンバーは35人。職業も年代もばらばらの座員達は、もちろん鬼神野地区の住民です。その話題の一座が笑いを通じて、「心地よい地域づくりは住民のつながり」なのだと教えてくれます。当日の公演は団員が少ないということで、急遽バスの運転手が参加することとなりましたが、運転手もその場に溶け込み楽しく演じていました。ここが一座のすごいところ。台本はないため同じ公演でも座長の言葉は違うのだそうです。何が起こるかかわからない、一瞬のハプニングが笑いを誘います。

#### 地芝居を通じた地域づくり

観客との意見交換会でも一座の活動姿勢に感心させられる場面がありました。隣町の祭りには出演依頼を断るとのこと。「自分たちの地域は自分たちで盛り上げねばならない。地域の者じゃないものが祭りを盛り上げて意味がない」。地域づくりの真髄を見ました。

『劇団はふるさとづくりですね』との観客の言葉に、座長が涙する場面もありました。意識していなかったのに傍から『ふるさとづくり』として感じられたことに感動したものでした。

#### 見えた課題

フォーラム参加者は、年配者が多く20代から40代が少なかったことから、地域の活動においてこれからどのように20代から40代を取り込んでいくかがあらためて課題となりました。

- 特集 フォーラムで築いた地域の力 -

フォーラム in 宮崎 (2009.2.21.土)

会場：宮崎公立大学 共催：宮崎県

アットホームな雰囲気から学生の活動発表へ美郷町南郷区の地芝居劇団「岩田利右衛門一座」のおもしろくもほろ苦いお芝居で、会場全体が温かい笑いの渦に包まれたオープニング後、宮崎市立西中学校の生徒会執行部、県立宮崎西高等学校及び附属中学校の生徒会執行部が、地域とともにやっている様々な活動について発表しました。その後、宮崎公立大学生が地域の小学生を対象に活動している様子がリアルタイムで会場に流されました。中学生や高校生、大学生の自発的な活動に対し、会場から賛同の声があがりました。

地域活動の事例報告と会場との意見交換  
県内各地で地域をフィールドに活動している3つの団体の活動報告の後、「これからの宮崎の地域づくり」について会場が一体となった、意見交換会を行いました。地域づくりのあり様について、会場から多くの意見が出され、地域の一員として社会に参画していくことの重要さや自分たちで自分たちの地域を活性化していくことの必要性についてあらためて理解を共有することができました。また、「すねかじり・グレイト・ブラザーズ・バンド」による気持ちが元気になる演奏を聴きながら、参加者を含め、スタッフ一同も、人が人を支えることの大切さについて再認識する機会となりました。

- 参加協力事業 -

大人と子どもが語る会 (2008.3.22.土) 日向市立富島中学校

みんなのくらしターミナルの会員が富島中学校の生徒会執行部のメンバーと同じテーブルで、現在の社会の課題や、今後の社会のあるべき姿等について、大いに議論し合いました。

「このような貴重な会に参加することができて、とても良かったです。僕のこれからもつながる話し合いもできてお忙しい中ささった人たちにも感謝をしています。僕たちが見る大人と、大人たちが見る僕たち子ども、それぞれ思っていることは違うと思います。この会を通して、子どもが考えるべきことと、大人が考えるべきことがそれぞれでつかめたと思います。この考え方が学校内だけではいけないと思います。学校外でも何かボランティアをする、こういう考え方も大切だと思います。地域の人たちに、顔が覚えてもらえるよう、本当に日本一の富島中学校だと思ってもらえるように、これからしっかりとこの語る会で学んだことを活かして頑張っていきたいと思います。」

参加した生徒の一人が、このような感想を届けてくれました。教師、親以外の社会に生きる大人の姿を見せる機会を、今後ともつくっていきたくて考えています。

「みんなの人権！ 思いやり交流プラザ2008」(2008.10.26.日)  
佐土原総合文化センター、佐土原中央公民館



みんなのくらしターミナル代表理事の初鹿野聡と会員の柳本明子が「第4の社会 インターネット上での自分の守り方」をテーマに講演、成長過程の子ども達に、気軽に携帯電話を与えてしまっている現代社会への警告と、被害にあってしまった時の対処方法などを熱く語りました。

中央体育館では、きよたけ郷ハートムによる寸劇「地域の底力！笑いがつなく人と人、心と心」と意見交換会が開催され、芸達者な皆さんのお芝居に会場が笑いに包まれました。

展示ブースでは、MKTの活動を紹介、知事や副知事、戸敷前佐土原町長もお立ち寄りいただき、賑やかな中、あっという間に時間が過ぎました。

## 森のアートハウス in 諸塚

- 平成 20 年度シニアパワー新みやざき創造推進事業（宮崎県より受託事業）報告 -

第 1 部：2008.11.1.土～2.日 第 2 部：2008.11.15.土～16.日

### 委託事業の趣旨と目的

現在、中山間地域では若年層の他県流出により高齢化を招き、地域活力の低下につながっているのが現状です。他方、人々の価値観の多様化により、あらたな生きがいを求め都会から地方に移住する「ターン者」や「リターン者」の増加が見られます。

今回の事業はそこをつなぐため、地域に住む元気な高齢者の持つポテンシャルを「シニアパワー」として生かそうというものです。他地域の方も地元の方も、その地域の良さを再発見できる企画です。

### 諸塚のシニアパワーとともに

地元高齢者グループ「立岩寿会」を中心に諸塚村立岩地区の皆さんが、みんなのくらしターミナルとともに地域を盛り上げる企画です。少子高齢化が進む山間部が元気になるために考えられたアイデアがこの「森のアートハウス in 諸塚」でした。

村全体が森林公園のような風光明媚な諸塚を、各地から集まった写真愛好家がそれぞれの写真で切り取っていくというなんと驚沢な企画！プロカメラマンによる講習や郷土料理を囲む地元住民の皆様との交流会や作品発表会など盛りだくさんの内容でした。



### 閉校の小学校をベースキャンプに

ベースキャンプになったのは旧立岩小学校。1908 年開校という歴史を持ちながら 2006 年に惜しまれながら閉校となった立岩小学校舎を

使わせていただきました。校舎は児童が通うだけでなく地域の中心としても存在感のあるものでした。しかし今度はここを拠点に新たな活気を呼ぼうというものです。校舎をアートハウスに見立て将来的にはいろんな方面の芸術家が教室をアトリエにし、思いっきり芸術に没頭していただくというビジョンがあります。そんな将来を見据え、先ずはその足がかりとしてのこの企画です。

### 創作活動 - 撮影講座と郷土料理のコラボ

第 1 部は写真家小河孝浩さんの撮影講座からスタート。さすがプロの講話だけあってこれから始まる創作活動の意欲を掻き立てる内容でした。その後立岩地区を中心に参加者は思い思いの場所に。カメラを通して発見の連続だったようです。

学校体育館にての夜の交流会。地元の皆さんが用意された山の幸をふんだんに使った郷土料理と MKT 高橋の諸塚食材を使ったフランス郷土料理のコラボレーションが会を盛り上げました。

盛り上がったところでお待ちかねの作品発表タイム。スクリーンを使ってみんなの前で一人ずつの発表。小河先生のコメントも入りながら進む発表に撮影者のドキドキ！しかし何と言ってもあらためて地元のよさを再発見したのは立岩地区の皆さん。「外の目」が捉えた立岩の風景は地元の方々に新鮮に映ったようです。



## 校舎をアートハウスに

11月15日からの第2部は村民文化祭の協賛としての開催。校舎をアートハウスとし先日の第1部に撮影した作品の展示をおこないました。長さ6mのビニールテープを校舎の2階から全体を囲むようにして流す演出で建物そのものをアートにする大胆な演出も。

カフェコーナーも設け第1部を立岩の方々と回想しながら楽しく過ごしました。

## 地域の暮らしと財産

この企画にはいろんな「発見」がありました。参加者が見た、違う「地域の暮らし」。地元住民が気づいた「地元の財産」。それぞれがお互いの良さに気づき、認め合う機会を

これからもわたしたちは住民の方々とともに考え、実行していかなければとあらためて思った次第です。



## - 廃油回収活動実績報告 -

みんなのくらしターミナルでは、株式会社金海産業さんと提携し、2008年2月より回収廃食油1につき10円とバイオディーゼル燃料を寄付していただいています。寄付金10円のうち7円は、特定非営利活動法人きよたけ郷ハートムの活動費に充てられ、燃料は青パト運用に活用されるなど、環境、安全、地域活動に役立って一石三鳥の取り組みとなっています。

### 2009年2月までの実績

- ・総回収廃油量 5,284
- ・寄付金 ¥82,740 (うちMKT事務手数料は¥24,822)
- ・バイオ燃料 527

### 回収協力団体

加納保育園、清武せいりゅう支援学校、警察学校、乳岩亭、船引保育園、宮崎観光ホテル、宮崎大学、宮崎若久病院、れんげ畑

(五十音順、敬称略)

地球温暖化防止のために一人一人が取り組める活動として、今後ますます廃食油リサイクルの輪を拡げていく必要があると考えています。

- 第2回通常総会開催のご案内 -

下記の日程で、第2回通常総会を開催します。  
2008年度事業の総括とともに2009年度の取り組みを会員総意で決定する大事な会議です。  
わたしたちにとって大切な「暮らしの視点」を考えるワークショップも盛り込み  
合宿形式で行います。万障お繰り合わせの上ご参加ください。  
詳しくは別添総会案内をご覧になり4月16日までに欠出の返信をお願いいたします。

日 時	2009年4月25日(土) 13:00~ 翌朝解散
会 場	蜂の巣公園キャンプ場コテージ 〒889-2402 南那珂郡北郷町郷之原 2850-1 TEL・FAX:0987-55-3828
審議事項	事業報告及び決算報告 事業計画案及び予算案の承認ほか
報告事項	定例会について、会報について
そ の 他	宿泊3,000円の負担金あり 夕食、飲み物、茶菓子、朝食用米一合各自持ち寄り ベッド、お風呂(温泉)あり



みんなのくらしターミナルは現在正会員 38 名、法人会員 2 団体、賛助会員 3 名、賛助法人会員 2 団体で運営しています。

本年度も、みんなのくらしを支える「新しい公」のターミナル機関として、豊かな地域づくり社会づくりへ向けたビジョンを発信し、地域の元気を育てるしくみづくりに関わっていきたく思います。

会員みなさんの知恵やアイデアをいただきますよう、よろしく願いいたします。

また、今後ともこのような積極的な活動をしていくためには、多くの方のご賛同が必要です。  
みんなのくらしターミナルではご賛同いただける方のご入会を募っております。ともに地域を考えるために皆様のご参加をお待ちしております。



【編集・発行】特定非営利活動法人みんなのくらしターミナル  
〒889-1605 宮崎県宮崎郡清武町大字加納乙2 4 3 番地 3 TEL・FAX:0985-88-1057  
E-mail: youkoso@minnanokurashi.org URL: <http://minnanokurashi.org/>